

TEISO TOYOKA NEWS

2016年7月号 VOL.90

企画・発行：(株)テイソートヨカ 四日市技術研究所
掲載している記事の無断使用を禁じます。〈URL〉 <http://www.teisotoyoka.com> 〈E-mail〉 info@teisotoyoka.com

食品工場におけるカビ対策

食品工場などで総合環境衛生管理を行っている、毎年梅雨の時期から増えてくるのがカビについてのご相談です。カビは製品（食品）への異物混入問題を引き起こすだけでなく、製品や建物を劣化させたりもしますので、食物を扱う作業場ではカビの管理は欠かせません。そこで今回は、食品工場におけるカビ対策についてまとめてみたいと思います。

食品工場などの製造エリアにおいて、消毒や殺菌を行うことでエリア内の清浄度を一時的に上げることは可能ですが、空調機器の吹き出し口や扉、窓からの外気の流入、人や物の往来など、様々な要因によってすぐに再汚染されてしまいます。従って、防カビ対策を行う際は、既存のカビを一度リセットし、その後再発生させないための抗カビ施工を行い、日常的に予防を行うのが理想です。

その主な流れは下記ようになります。

- ① 徹底した殺菌消毒により、製造エリア内における現状のカビを除去 ⇒ リセット
- ② カビの再発生防止のための防カビ施工 ⇒ 防カビ剤等の使用
- ③ 空調コントロールの徹底 ⇒ 日常的な除湿によるカビの予防
- ④ 空調機器などの定期清掃の実施 ⇒ 日常的な清掃、洗浄によるカビの予防
- ⑤ 製造環境の清浄度チェック ⇒ 定期的なモニター

カビの繁殖を防ぐためには、まず殺菌消毒し、カビを取り除きます。その後、防カビ剤を塗布するなどの直接的な防カビ施工をすると共に、間接的なカビ対策、すなわち予防のための日常的な対策を行います。

カビの生育には温度・湿度・養分が重要で、それらの好適な条件が揃うとすぐに繁殖し、製造エリア内の清浄度を下げてしまいます。特に、高温多湿だともうの凄まじいスピードで蔓延してしまい、一般に、相対湿度 60%を越えるとカビが発生しやすくなり、80%を越えると大繁殖しますので、換気扇や扇風機などを利用して除湿すると効果的です。また、カビはちょっとした養分から繁殖してしまいますので、清掃や洗浄により汚れをこまめに除去することは非常に重要と言えます。日常的に消毒用アルコールなどを噴霧することも有効です。

また、製造エリア内のカビによる汚染度合いをモニターするためにも、環境微生物検査（落下菌検査や空中浮遊菌検査、スタンプ検査など）を実施し、定期的に清浄度をチェックしておくことカビの発生予防につながります。（T.S.）



今月のオススメ① 電池で動くコンパクトな業務用飛翔性昆虫防除器 STRONTEC®

製造工場等で防虫管理を行っている、外部からの飛翔性昆虫対策に何か良いものはないかというご相談をよく受けます。そんなときにご紹介させて頂いているのが、この STRONTEC®です。

本製品は液剤を微粒子として拡散させる特許技術を活用することで、より高い防虫効果を発揮します。有効成分はピレスロイド系のプロフルトリンというもので、昆虫に対して速効性があります。また成分の分解性が高く残留が少ないため、人や環境に対する安全性が高いという特徴があります。

「虫を寄せ付けないのはいいけど、お店の雰囲気を壊さないかしら？」といった心配も、STRONTEC®であればご心配いりません。本製品はコンパクトかつスリムなデザイン（高さ 20 cm × 幅 4 cm）で、色もホワイト調なので悪目立ちしません。さらに、微粒子として液剤を拡散するので、本体からは目に見えるような煙は出ません。

壁に設置する際も、ネジ止めまたは両面テープで、どなたでも簡単に取り付けすることができます。効果は単3型乾電池 2本で最長3か月間持続し、コンセントなどの電源を必要としないため、設置場所にも困りません。本製品は搬出入口など外部と接する場所でよくご使用頂いています。また、物流倉庫、飲食店、オフィスビルなどでもご好評を頂いております。

STRONTEC®に関するお問い合わせはテイソートヨカまで！



メルマガ会員募集中！

自然の復元力 Vol. 70

生き残り戦略-6 : その他

昆虫の生き残り戦略には、まだまだ色々あります。体サイズの小型化もその一つです。昆虫はクチクラで構成された外骨格を形成しているため、体を大きくすることはできないと以前ご説明しましたが、昆虫の祖先の中には古生代の石炭紀まで巨大化を進めていたグループがいたことが分かっています。残念なこと(?)に、巨大化した昆虫類は石炭紀に絶滅し、昆虫は全て小型になってしまいました。小型化により、狭い空間を利用できるようになり、且つライフサイクルの短縮化にも成功することができました。これにより多様な環境に順応する能力を持ちました。小さな生物ほど、世代交代の時間が短く個体群の増加率が高いといえ、昆虫は最も増加のポテンシャルが高い動物に挙げられますが、一方では寿命が短いことが指摘されています。このような小型化した生物は進化のスピードが速く、それだけ様々な環境の変化にも適応しやすいという特長を持っているといえます。

生き残り戦略の変わった例として、北米に生息するオオカバマダラという蝶がいます。この蝶は幼虫期にガガイモ科の毒草を食べるのですが、毒草を無毒化し、食草として利用しています。その結果、膨大な食草の確保と鳥類などの天敵から逃れることに成功しました。また、以前アリ類の「群知能」は生き残り戦略の一つだと紹介しましたが、真社会性昆虫のミツバチも群れの中で個々が役割分担を持ち、その分担が加齢に伴って変化することや、餌場をダンスによって仲間知らせる独特の情報連絡システムを構築していることも優れた「群知能」であるといえ、これも立派な生き残り戦略の成功例でしょう。昆虫は人間並みの知性を持ってはいませんが、人間とは異なる確かな intelligence があるのは間違いありません。

昆虫の生き残り戦略は、このように数多くあります。即ち、個々の種がそれぞれ環境に適應するため、独自の生き残り戦略を進め、その結果として地球上の各地で昆虫の多様化が進んでいったと考えられます。昆虫達の生き残り戦略は、現在進行形で新たな生活圏を求めて、活動し続けているでしょう。昆虫は多様化を進めた結果として、下記のように地球上の過酷な場所でも生息が確認されています：氷点下 65°Cの南極においてトビケラが、また氷河には氷河にのみ生息するセッケイカワゲラが確認されています。一方、40°C以上の高温な土地にもトビムシ、ユスリカ、ミギワバエなどが見つかっています。また、アフリカのナイジェリアの半乾燥した砂漠地帯ではネムリユスリカが生息しています。塩田にはオオツノハネカクシ、油田にはセキユバエ、有毒ガスが噴射する硫黄孔にもハンミョウやユスリカの生息がみられています。そして、海水の水面でどのようにして生活しているか分かりませんが、ウミユスリカやシオアメンボ(ウミアメンボ)などが生きています。昆虫は、地球上の(深海以外の)あらゆる場所に進出しているといわれており、これが「地球は昆虫の惑星」といわれる所以になっています。(Sin)



今月のオススメ② クモの駆除とクモの巣の予防に クモコロパー®FL

今月はクモの駆除やクモの巣の予防に最適なハンドスプレータイプの殺クモ剤「クモコロパー®FL」をご紹介します。



【クモコロパー®FLの特長】

- ➔ 薬剤は希釈せずにそのまま使用できます。
- ➔ ハンドスプレー付きですので手軽に処理できます。
- ➔ 壁面に処理しても変色やべとつきなどの影響がほとんどありません。
- ➔ 低臭性なので嫌な臭いも残りません。
- ➔ クモが嫌がる天然精油成分により、クモが巣を張るのを防ぎます。

クモを駆除する際は、クモに直接スプレーして下さい(2~3回程)。クモの巣の予防には、軒下や天井、壁の立ち上がり、コーナー部などクモが巣を作りやすいところに処理し、拭き取らずにそのまま乾燥させて下さい。

クモコロパー®FLに関するお問い合わせはテイソートヨカまで！



Eco Friendly Pest Management
自然にやさしい総合的有害生物管理
株式会社テイソートヨカ

IPM・コンサルティング・異物同定分析
有害生物(ネズミ、ゴキブリ等)管理・ノラバト飛来防止施工

〈URL〉 <http://www.teisotoyoka.com> 〈E-mail〉 info-teiso@teisotoyoka.com

本社・名古屋東営業所	〒468-0045	名古屋市天白区野並 2 丁目 334 番地の 2	TEL 052-891-8311	FAX 052-891-8440
名古屋西営業所	〒453-0818	名古屋市中村区千成通 4 丁目 18 番地	TEL 052-482-6591	FAX 052-482-8778
三重営業所	〒510-0863	三重県四日市市大字塩浜 4005 番地 1	TEL 059-345-3571	FAX 059-345-3572
岐阜営業所	〒501-6264	岐阜県羽島市小熊町島 4 丁目 61 番	TEL 058-392-6454	FAX 058-392-6407
北陸営業所	〒920-0356	石川県金沢市専光寺町夕 47 番地 1	TEL 076-266-6474	FAX 076-267-6480
富山営業所	〒939-8261	富山県富山市萩原 42 番地 1	TEL 076-481-6474	FAX 076-481-6471
新潟営業所	〒950-0993	新潟県新潟市中央区上所中 2 丁目 1 番 7 号	TEL 025-283-6474	FAX 025-283-6497
四日市技術研究所	〒510-0863	三重県四日市市大字塩浜 4005 番地 1	TEL 059-325-6431	FAX 059-325-6430